

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程	1 年
科 目	人文科学概論	
科目担当者	伊藤和之	
単位数及び年間時間数	2 単 位	30 時 間
使用教科書	丹澤章八編著. 鍼灸臨床における医療面接. 医道の日本社, 2002	
使用参考書	1) 丹澤章八編著. 改訂版鍼灸臨床における医療面接. 医道の日本社, 2019 2) 日本点字表記法2018年版. 日本点字委員会. 大活字, 2019 3) 澤田真弓, 原田良實編著. 中途視覚障害者への点字触読指導マニュアル. 読書工房, 2004	
評価方法	筆記試験、授業時の実技によって評価を行う。	
授業目的及び概要	<p>目的1：対人援助職に必要なコミュニケーション諸領域の習得を通して、医療面接を学ぶ意欲を涵養することを目的とする。</p> <p>目的2：点字の学習を通して、施術者に必要な触知覚及び触運動の統制に対する動機づけを行うことを目的とする。</p> <p>授業は、以下を柱とする。</p> <p>1. 対人援助職に必要なコミュニケーションの知識と技法及び態度に関する学習</p> <p>3. 点字の歴史と構造及び触読に関する学習</p>	
授 業 内 容		時間数
前 期 (14 週)		14
理療とコミュニケーション 単元 医療面接の基礎 I 1 コミュニケーションの三つの側面 2 対人援助職に必要なコミュニケーションの知識と技法 3 患者・医療者・医療行為 期末試験講評		6 6 1 1
後 期 (16 週)		16
理療とコミュニケーション 単元 医療面接の基礎 II 1 対人援助職に必要な態度 2 医療面接とは 3 医療面接の役割 4 医療面接の導入部 コミュニケーションの知識と技能 単元 点字 1 点字の歴史 2 点字の構成 3 点字の触読 期末試験講評		3 3 3 3 1 1 1 1

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		1 年
科 目	社会科学概論		
科目担当者	石塚 聡		
単位数及び年間時間数	2	単位	30 時間
使用教科書	なし		
使用参考書	『はじめての行政学』有斐閣		
評価方法	前期末、後期末、各1回の筆記試験を実施し、その平均点を評価とする。		
授業目的及び概要	国の統治機構の中で、とりわけ行政機構について総合的に理解することを目的とする。また、時々の政治、経済、国際問題、教育問題等に関するメディア情報を活用し、社会問題、時事問題全般への関心を深めていきたい。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (14 週)			14
1、行政とは何か 行政の捉え方 政府の役割 官僚機構			7 3 2 2
2、福祉国家、行政国家 大きな政府と小さな政府 行政改革と新自由主義 ガバナンス論			7 3 2 2
後 期 (16 週)			16
3、国と自治体の機構 執政制度 政官関係 自治体の行政組織			8 3 3 2
4、公務員制度 公務員制度の国際比較 法人化、民営化 規制改革			8 3 3 2

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			1 年
科 目	自然科学概論			
科目担当者	漆畑 和美			
単位数及び年間時間数	2	単位	30	時間
使用教科書				
使用参考書	「生物と細胞」「これだけ生化学」「ヒトの遺伝子と細胞」			
評価方法	前期期末試験・後期期末試験を実施し、その平均点を年間評価とする。			
授業目的及び概要	科学の基本的知識を理解し、理療教育に必要な知識を身につける。必要に応じて資料を提供する。			
授 業 内 容				時間数
前 期 (14 週)				14
ガイダンス				1
生命の連続と進化				
ア 細胞と生命の連続				13
生物の基礎 (細胞の働き)				
(1) 仮説実験授業「生物と細胞」				(4)
(2) ヒトの遺伝子と細胞(細胞のはたらき)				
第1章 生命を形づくる細胞				
細胞小器官の特徴と機能				(6)
細胞膜の特徴と機能				(3)
後 期 (16 週)				16
生命の連続と進化				
ア 細胞と生命の連続				
生体を構成する物質(構造と機能)				16
(1) 糖質				(3)
(2) 脂質				(2)
(3) タンパク質				(4)
(4) ビタミン				(4)
(5) ミネラル				(3)
参考文献				
これだけ生化学				
第3章 生体分子の構造と機能				
第4章 タンパク質の機能				
ヒトの細胞と遺伝子				
第3章 細胞をつくる物質 (タンパク質関連)				

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		1 年
科 目	保健体育		
科目担当者	江黒 直樹		
単位数及び年間時間数	1	単位	30 時間
使用教科書	なし		
使用参考書	障害者のスポーツ指導の手引き・全国障害者スポーツ大会競技規則 集他		
評価方法	自己の能力に応じた取り組みが出来るか、各種目の特性ルールを理解できているかを平常授業で観察記録法による評価と併せてレポートを加味して評価します。		
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な健康・安全や身体運動について教授し健康の維持増進の為の運動を实践させ、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。</p> <p>視覚障害者に対応できるよう器具やルールの工夫されたものを教材として身体を動かす楽しさや心地よさを体感できるようにします。</p>		
授 業 内 容			時間数
前 期 (14 週)			14
ガイダンス			1
体力測定講評			2
陸上			3
体育祭練習			2
水泳			6
後 期 (16 週)			16
水泳			4
視覚障がい者スポーツ			10
STT			
GB			
FV			
レクリエーションスポーツ			2

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程 1年	
科 目	解剖学 I	
科目担当者	1組 橋本 (浮田)	2組 藤原 (浮田)
単位数及び年間時間数	4 単 位	120 時 間
使用教科書	盲学校長会編理療科用教科用図書 人体の構造と機能 解剖学第2版	
使用参考書		
評価方法	前期期末、後期期末の2回の定期試験の結果により、その素点の平均点をもって学年末評価とする。	
授業目的及び概要	人体の構造を各系統別に学習する。骨格系、筋系、神経系及び運動学について模型及び体表観察を加えて、施術者としての基礎知識を構築する。	
授 業 内 容		時間数
前 期 (14 週)		56
(1) 解剖学の基礎 ア 解剖学の意義と分類 イ 人体の構成 ウ 解剖学的用語 エ 人体の方向と運動 (2) 運動器系①骨格系 ア 骨の一般 イ 頭 蓋：脳頭蓋 顔面頭蓋 ウ 脊 柱 エ 胸 郭 オ 上肢の骨：上肢帯 上腕骨 前腕の骨 手の骨 カ 下肢の骨：下肢帯 大腿骨 下腿の骨 足の骨 キ 骨 盤 ク 骨の連結 ケ 人体各部の主要関節：関節の構造 コ 各関節の運動：関節の運動 (3) 運動器系②筋 系 ア 筋の一般 イ 胸 筋：浅胸筋 深胸筋 横隔膜 ウ 胸 筋：前腹筋 側腹筋 後腹筋 エ 背 筋：浅背筋 深背筋 オ 体幹の筋と運動：片足立位時の骨盤に対する中殿筋第1のてこ		1 1 1 8 3 1 6 6 1 1 7 7 1 4 2 4 2
後 期 (16 週)		64
運動器系 ②筋系 カ 上肢の筋と運動：上腕三頭筋第1のてこ、腕橈骨筋第2のてこ、上腕三頭筋第3のてこ キ 上肢の筋：上肢帯筋 上腕筋群 前腕筋群 手の筋 ク 下肢の筋：下肢帯筋 大腿筋群 下腿筋群 足の筋 ケ 下肢の筋と運動：つま先立ち下腿三頭筋第2のてこ、大腿四頭筋第3のてこ コ 頭部の筋：表情筋 咀嚼筋 サ 頸 筋：胸鎖乳突筋 斜角筋 (4) 神経系 ア 神経系の構成 イ 中枢神経系：脳 脊髄 ウ 末梢神経系：脳神経 脊髄神経 自律神経 エ 伝導路：下行性伝導路（錐体路、錐体外路） 上行性伝導路（感覚・特殊感覚） (5) 基礎運動学 ア 運動の基礎（てこと滑車）：まとめ イ 体の重心と姿勢		8 8 8 8 2 2 1 5 8 4 5 5

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		1 年
科 目	解剖学Ⅱ		
科目担当者	1組 滝 2組 橋本		
単位数及び年間時間数	3	単位	90 時間
使用教科書	解剖学第2版 盲学校理療教科用図書編纂委員会編		
使用参考書	なし		
評価方法	前期期末、後期期末の2回の定期試験の結果により、その素点の平均点をもって学年末評価とする。		
授業目的及び概要	人体の構造を各系統別に学習する。循環器系、内臓器系、感覚器系について模型及び体表観察を加えて、施術者としての基礎知識を構築する。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (14 週)			42
導入：解剖学Ⅱの年間計画や評価について			2
第1章 人体の構成			8
第4章 消化器系			22
第3章 呼吸器系			10
後 期 (16 週)			48
第5章 泌尿器系			9
第6章 生殖器系			6
第7章 内分泌系			5
第2章 循環器系			20
第9章 感覚器系			8

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		1 年
科 目	生理学 I		
科目担当者	渡邊麗恵		
単位数及び年間時間数	2	単位	60 時間
使用教科書	人体の構造と機能 生理学 第3版 医歯薬出版		
使用参考書			
評価方法	評価指針に基づき評価を行う。前期、後期の期末試験で評価する。		
授業目的及び概要	施術者として必要な人体の機能について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (14 週)			28
第1章 生理学の基礎			6
第2章 循環			13
第3章 呼吸			9
後 期 (16 週)			32
第4章 消化と吸収			14
第5章 代謝			5
第6章 体温			5
第7章 排泄			8

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		1 年
科 目	関係法規		
科目担当者	池田 和久		
単位数及び年間時間数	1	単位	30 時間
使用教科書	医療と関係法規(改定第7版) 岡山ライトハウス		
使用参考書	関係法規第7版 東洋療法学校協会編		
評価方法	前期・後期ともに期末試験を筆記試験で行い、評価指針によって評価する。		
授業目的及び概要	あはき師国家試験の出題基準に重点を置き、あはき師の業務に関する法令について基礎的事項を学習する。法律の存在を知り、その意味するところを理解し、活用することができる能力を養う。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			15
ガイダンス (授業の進め方、評価方法など)			
1. あん摩・鍼灸における法と制度の概要 法とは何か、あん摩・鍼灸の制度史			1
2. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律の概要			
(1) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における免許			
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の免許の資格要件			1
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の免許に関する事務など			1
ウ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の身分の消滅と復活			1
(2) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における業務			
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の業務の独占と業務範囲			1
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の施術に関する注意			1
ウ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の施術所などに関する規制			1
エ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師施術所の名称の制限及び広告の制限			1
オ あん摩マッサージ指圧、はり、きゆうの業務の停止			1
カ 無免許営業の取り締まり			1
(3) 罰 則			
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に関する罰則			1
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師施術所に関する罰則			1
まとめ 問題演習			3
後 期 (15 週)			15
3. その他の関係法規			
(1) 医療に関する法律			
ア 医療法の概要			1
イ 医師法の概要			1
ウ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要			1
(2) 社会福祉に関する法律			
ア 老人福祉法の概要			1
イ 児童福祉法の概要			1
ウ 身体障害者福祉法の概要			1
エ 知的障害者福祉法の概要			1
オ 介護保険法の概要			1
カ 老人保健法の概要			1
まとめ 問題演習			6

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		1 年
科 目	東洋医学概論 I		
科目担当者	1組 麻生 弘樹・2組 中西 初男		
単位数及び年間時間数	2	単位	60 時間
使用教科書	「新版・東洋医学概論」		
使用参考書	「基礎理療学 I (東洋医学概論) 改訂第6版」 盲学校理療教科用図書編 オリエンス研究会著		
評価方法	各学期末に筆答試験を実施し、評価する。		
授業目的及び概要	あん摩マッサージ指圧師として必要な東洋医学の概念、診断法及び治療法等の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (14 週)			28
(1) 東洋医学の基礎 ア 東洋医学の意義と沿革及び特色 イ 陰陽五行論			1 3
(2) 五臓六腑 各臓腑の位置・形状・生理 奇恒の府の名称			8
(3) 臓腑経絡論 臓腑論			8
(4) 気血津液 ア 気血 イ 津液			4 4
後 期 (16 週)			32
(5) 病因論 内傷病、外感病			4
(6) 病証論 ア 八綱病証 イ 臓腑病証 ウ 十二経病証			3 4 2
(7) 診断法 ア 四診の意義と概念 イ 望診の概要 ウ 聞診の概要 エ 問診の概要 オ 切診の概要 カ 証の概要			1 2 2 2 2 3
(8) 治療法			7

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			1 年
科 目	経絡経穴概論 I			
科目担当者	1組 柴田 2組 中西			
単位数及び年間時間数	3	単位	90	時間
使用教科書	新版 経絡経穴概論			
使用参考書				
評価方法	各期末に実施する試験で評価する。 後期期末試験は前期の内容も併せ総括したものとする。			
授業目的及び概要	施術者として必要な臓腑・経絡の概念、十四経脈とその経穴の名称、主要な経穴の部位及び所属、五要穴について学ぶ。施術者として必要な臓腑・経絡の概念、十四経脈とその経穴の名称、主要な経穴の部位及び所属、五要穴について学ぶ。			
授 業 内 容				時間数
前 期 (14 週)				42
第1章 経絡・経穴の基礎 臓腑・経絡の概要 経穴の概要				10
第2章 経脈・経穴				32
解剖的肢位と方向に関する用語				
十四経脈の名称と流注				
361穴の名称（各経脈ごとに）				
取り方の基点となる経穴の部位と取穴				
後 期 (16 週)				48
第2章 経脈・経穴				
十四経脈の名称と流注				
解剖学的部位と取穴				
五要穴の取穴（原穴 郄穴 絡穴 募穴 俞穴（背部））				
十四経脈の名称と流注				30
解剖学的部位と取穴				
五要穴の取穴（原穴 郄穴 絡穴 募穴 俞穴（背部））				18

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程	1 年
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習 I	
科目担当者	1 組 中西初男	2 組 柴田均一
単位数及び年間時間数	4 単 位	120 時 間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床	
使用参考書		
評価方法	各学期に複数教官による実技試験を行う他、平常授業時の態度、クラス内での協調性、研究心などを観察し、総合的に評価する。	
授業目的及び概要	あん摩師として必要な施術に関する知識と技能を教授し、施術を適切、且効果的に行う能力と態度を習得させる。	
授 業 内 容		時間数
前 期 (14 週)		56
1 導入		2
①実技室の環境確認と手洗いの指導		
②施術者としての心構え、身だしなみ、服装、実習物品(日本手拭い)の準備等		
③衛生管理(身体の清潔保持)・爪切り・リスク管理等		
④あん摩の沿革・現代社会における意義		
2 当座、必要となる体の各部の名称・関節運動の方向性と生体観察		1
3 基本七手技の紹介		5
4 座位における肩背部への施術		48
後 期 (16 週)		64
5 側臥位における上肢及び頸部への施術		12
6 側臥位における肩背腰部及び下肢への施術		28
7 腹臥位における肩背腰部及び下肢への施術		14
8 全身通しでの施術		10

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程	1 年	1組2組
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ		
科目担当者	1組 松浦 久泰 2組 滝 修		
単位数及び年間時間数	2 単 位	60	時 間
使用教科書	岡山盲理療研究会編著 手技療法の基礎と臨床		
使用参考書			
評価方法	1. 各期末に実施する試験等に基づき、指導目標の到達度を総合的に評価する。 2. 複数教官による実技試験を行う。 3. 前記は前腕のマッサージ、後期は膝関節のマッサージ施術を評価する。		
授業目的及び概要	あん摩マッサージ指圧師として必要な施術（マッサージ）に関する知識と技能について教授し、施術を、適切かつ効果的に行う能力と態度を習得させる。		
授 業 内 容			時間数
前 期 （ 14 週）			28
導入			2
基本手技			2
前腕のマッサージ			12
下腿のマッサージ			6
手関節のマッサージ			2
復習			4
後 期 （ 16 週）			32
足関節のマッサージ			4
膝関節のマッサージ			12
肩関節のマッサージ			6
顔面のマッサージ			6
復習			4

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		1 年
科 目	はりきゅう基礎実習 I		
科目担当者	1組麻生弘樹・佐藤智紀 2組島村明盛・藤原太樹		
単位数及び年間時間数	3	単位	90 時間
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 オリエンズ研究会編		
使用参考書	はりきゅう基礎実習 I 教官用指導マニュアル		
評価方法	各期末に実施する試験等に基づき、指導目標の到達度を総合的に評価する。試験の実施に当たっては、複数教官による実地試験を行い、片手挿管、刺鍼技術、施術の流れの3項目について統一評価基準を用いて評価する。		
授業目的及び概要	ステンレス鍼1寸3分の2番鍼を直刺で2cm、および1寸6分の2番鍼を直刺で2.5cmまたは4cm刺入できる技術を習得することを目的とする。また、衛生操作、用具の取扱い、施術の流れ、生体観察の基本、主な経穴の取穴等、鍼施術の基礎と安全動作を習得する。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (14 週)			42
1. 年間授業計画、必要用具、評価についての説明			1
2. 実技室の使い方、手洗い・手指消毒法、実技における諸注意			2
3. 揉捏、押手、留管、弾入			2
4. 両手挿管			2
5. 片手挿管			4
6. 銀鍼による刺鍼練習器への刺鍼			4
*寸3-3番鍼から始め、寸3-2番、寸6-3番、寸6-2番と移行する。			4
7. 皮膚消毒、オートクレーブ			1
8. 自分の下肢への刺鍼練習			4
9. 利用者同士で刺鍼練習を行う際の諸注意			2
10. 利用者同士で下腿への刺鍼練習			14
11. 下腿の主な経穴への刺鍼練習			
(12. 評価)			2
13. 講評			
後 期 (16 週)			48
1. 前腕部の主な経穴への刺鍼練習			4
2. 腰部の主な経穴への刺鍼練習			20
3. 背部の主な経穴への刺鍼練習			
4. 肩部の主な経穴への刺鍼練習			4
5. 頸部の主な経穴への刺鍼練習			4
6. 頭部の主な経穴への刺鍼練習			2
7. 胸腹部の主な経穴への刺鍼練習			2
8. 顔面部の主な経穴への刺鍼練習			2
9. 膝関節周囲の主な経穴への刺鍼練習			4
10. 指サック、グローブを装着した刺鍼体験			4
(11. 評価)			2
12. 講評			

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程 1 年		
科 目	はりきゅう基礎実習Ⅱ		
科目担当者	(1組) 池田 和久・奥山夕記子 (2組) 佐藤 智紀・嶋 正明		
単位数及び年間時間数	2 単 位	60 時 間	
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 岡山ライトハウス		
使用参考書	はりきゅう基礎実習Ⅱ 教官用指導マニュアル		
評価方法	①理療教育課評価指針に基づいて行う。 ②評価は前期・後期の期末試験による。		
授業目的及び概要	①施術者に必要なきゅう施術の技術と知識を学ぶ。 ②施術を安全・確実に行うための技術と知識を習得する。 ③視力の特性に応じて、施灸道具や施灸技術を工夫する。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (14 週)			28
1. 年間授業計画、評価、必要用具、身だしなみについての説明			1
2. 実技室の環境認知・使い方、手洗い、廃棄物の処理及び清掃について			1
3. 灸についての基礎知識の習得と、施灸体験			4
4. 点火器具の操作法			1
5. 艾の鑑別、過誤やリスクについて			1
6. 母指頭大、中指頭大、小指頭大の艾炷作成及び点火			20
*適宜、臨床でよく使用する経穴の紹介と取穴を行う。 利用者同士の施灸に当たっては、事前に担当教官による技術習得状況の確認を行う			
後 期 (16 週)			32
7. 米粒大の艾炷作成			8
8. 台座灸の操作			10
9. 温灸器具を用いた施灸法			6
10. 施灸による全身調整法			6
11. その他灸法の施灸法（隔物灸等）			2
*適宜、臨床でよく使用する経穴の紹介と取穴を行う。 利用者同士の施灸に当たっては、事前に担当教官による技術習得状況の確認を行う			

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程	1年
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ(指圧実技)	
科目担当者	佐取 幸枝	
単位数及び年間時間数	2 単 位	60 時 間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 改訂第4版	
使用参考書	よくわかる指圧テクニック(岡本雅典)、指圧(増永静人)	
評価方法	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ 教官用指導マニュアルに基づき、各学期末に行う複数教官による期末試験と授業中の随時の評価によって行う。	
授業目的及び概要	臨床に応用できる基礎的な能力と態度を養う。そのため腹臥位、仰臥位、側臥位、坐位といった全身指圧操作の基本術式を習得する。	
授 業 内 容		時間数
前 期 (14 週)		28
1 年間授業計画、評価、必要用具、身だしなみについての説明。 実技室の環境認知・使い方、手洗いについて。		4
2 基本手技の紹介(通常圧、持続圧、衝圧、緩圧、吸引圧、母指圧、四指圧、手掌圧など腰部仙骨部で行う。)		4
3 全身指圧操作の基本術式 第1節腹臥位の施術から第4節坐位の施術まで行う。ただし矯正法は行わない。		18
4 講評		2
		28
後 期 (16 週)		32
1 (前期の続き)全身指圧操作の基本術式 第1節腹臥位の施術から第4節坐位の施術まで行う。ただし矯正法は行わない。		24
2 全身指圧操作の基本術式を通して行う(時間は80分～90分) 第1節腹臥位の施術から第4節仰臥位の施術まで行う。ただし矯正法は行わない。		4
3 講評		2
4 施術所見学		2
		32

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2年
科 目	人文科学概論		
科目担当者	伊藤和之		
単位数及び年間時間数	2	単位	30 時間
使用教科書	丹澤章八編著. 鍼灸臨床における医療面接. 医道の日本社, 2002		
使用参考書	1) 丹澤章八編著. 改訂版鍼灸臨床における医療面接. 医道の日本社, 2019 2) 丹澤章八編著. 臨床推論 臨床脳を創ろう. 錦房, 2019		
評価方法	筆記試験、臨床実習前試験、授業時の実技によって評価を行う。		
授業目的及び概要	<p>医療面接に必要な知識と技法及び態度の習得とともに、施術前後の情報収集・管理に関する学習を通して、臨床実習時に学習者自らが全人的医療を実現する意欲を持てるよう、動機づけを行うことを目的とする。</p> <p>授業は、以下を柱とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接の知識と技法に関する学習 2. 予診票項目の理解と施術録作成の基礎に関する学習 		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			15
理療とコミュニケーション 単元 予診票・医療面接における情報収集と整理 1 予診票項目の理解と情報の収集 2 コンピュータを用いた予診票の作成 3 医療面接の演習 期末試験講評			4 3 7 1
後 期 (15 週)			15
理療とコミュニケーション 単元 医療面接の実際と記録 1 医療面接の演習と記録 単元 施術録作成の基礎 1 施術録のフォーマット 2 予診票・医療面接と施術録の統合 3 施術録作成演習 期末試験講評			9 1 1 3 1

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			2年
科 目	社会科学概論			
科目担当者	石塚 聡			
単位数及び年間時間数	2	単位	30	時間
使用教科書	なし			
使用参考書	『はじめての行政学』有斐閣			
評価方法	前期末、後期末、各1回の筆記試験を実施し、その平均点を評価とする。			
授業目的及び概要	国の統治機構の中で、とりわけ行政機構について総合的に理解することを目的とする。また、時々の政治、経済、国際問題、教育問題等に関するメディア情報を活用し、社会問題、時事問題全般への関心を深めていきたい。			
授 業 内 容				時間数
前 期 (15 週)				15
1、行政とは何か				7
行政の捉え方				3
政府の役割				2
官僚機構				2
2、福祉国家、行政国家				8
大きな政府と小さな政府				3
行政改革と新自由主義				3
ガバナンス論				2
後 期 (15 週)				15
3、国と自治体の機構				8
執政制度				3
政官関係				3
自治体の行政組織				2
4、公務員制度				7
公務員制度の国際比較				3
法人化、民営化				2
規制改革				2

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			2年
科 目	自然科学概論			
科目担当者	漆畑 和美			
単位数及び年間時間数	2	単位	30	時間
使用教科書				
使用参考書	「休み時間の生物学」「遺伝の仕組み（休み時間の生物学）」「ヒトの遺伝子と細胞」「よくわかる気象」「理科の地図帳（地形・気象偏）」			
評価方法	前期期末試験・後期期末試験を実施し、評価とする。			
授業目的及び概要	科学の基本的知識を理解し、理療教育に必要な知識を身につける。必要に応じて資料を作成し配布する。			
授 業 内 容				時間数
前 期 （ 15 週）				15
ガイダンス				1
生命の連続と進化				
ウ 遺伝と変異				
遺伝のしくみ(メンデルの法則を中心として)				3
血液型と遺伝				2
血液型の遺伝				2
遺伝疾患(常染色体優性/劣性 伴性 母系遺伝 突然変異)				4
染色体異常				1
先天性代謝障害				1
後 期 （ 15 週）				15
(4) 自然と人間及び自然界の平衡				
環境と生物				
気象病と季節病				1
高度と温度気圧の関係				1
大気大循環				2
ジェット気流と低気圧高気圧				1
湿度				1
台風				1
気候変動				1
身近な気象現象				1
オゾン層				1
地球温暖化				1
酸性雨紫外線				1
気象災害				1
力と運動（てこ）				2

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			2年
科 目	保健体育			
科目担当者	江黒 直樹			
単位数及び年間時間数	1	単位	30	時間
使用教科書	なし			
使用参考書	障害者のスポーツ指導の手引き・全国障害者スポーツ大会競技規則集他			
評価方法	自己の能力に応じた取り組みが出来るか、各種目の特性ルールを理解できているかを平常授業で観察記録法による評価と併せてレポートを加味して評価します。			
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な健康・安全や身体運動について教授し健康の維持増進の為の運動を実践させ、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。</p> <p>視覚障害者に対応できるよう器具やルールの工夫されたものを教材として身体を動かす楽しさや心地よさを体感できるようにします。</p>			
授 業 内 容				時間数
前 期 (15 週)				15
ガイダンス 体力測定、講評 陸上、体育祭練習 水泳				1 2 6 6
後 期 (15 週)				15
水泳 視覚障がい者スポーツ STT GB レクリエーションスポーツ ゴルフ関連				4 5 6

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2 年
科 目	生理学Ⅱ		
科目担当者	松浦武		
単位数及び年間時間数	3	単位	90 時間
使用教科書	盲学校図書編纂委員会編 人体の構造と機能 生理学 第3版		
使用参考書			
評価方法	各学期末に行う期末試験で評価します。		
授業目的及び概要	生理学Ⅱも人体の機能（働き）について学習します。2年生では内分泌、生殖・成長と老化、神経、筋、運動、感覚、生体の防御機構、身体活動の協調について取り上げます。この学習を通じて、あはき治療はどのようにして人体に効くのか、考察のヒントを学ぶと共に、これを施術に応用する能力と態度を習得します。		
授 業 内 容			時間数
前 期 （ 15 週）			45
第8章 内分泌			12
第9章 生殖・成長と老化			9
第10章 神経			12
第11章 筋			12
後 期 （ 15 週）			45
第12章 運動			12
第13章 感覚			12
第14章 生体の防御機構			11
第15章 身体活動の協調			10

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			2年
科 目	病理学概論			
科目担当者	渡邊麗恵			
単位数及び年間時間数	2	単位	60	時間
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ（病理学概論）岡山ライトハウス			
使用参考書				
評価方法	理療教育課評価指針に基づいて行う。前期、後期の期末試験で評価する。			
授業目的及び概要	施術者として必要な疾病の本態や各病変の概要について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。			
授 業 内 容				時間数
前 期 （ 15 週）				30
1. ガイダンス（授業の進め方、評価方法等）				1
2. 第1編 病理学の基礎				6
第2編 病因				17
第3編 病変 （1）循環障害				6
後 期 （ 15 週）				30
1. 第3編 病変 （2）退行性病変（変性・萎縮・壊死等）				4
（3）進行性病変（肥大・再生・移植等）				4
（4）炎症（炎症の概念、原因、炎症の経過と転帰等）				8
（5）腫瘍（腫瘍の意義・形態・構造等）				9
（6）免疫異常（免疫の仕組み、免疫応答異常、免疫不全等）				3
2. 総復習				2

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2年
科 目	臨床医学総論		
科目担当者	松浦武		
単位数及び年間時間数	3	単位	90 時間
使用教科書	理教連教科書委員会編 生活と疾病Ⅱ 臨床医学総論 第2版		
使用参考書			
評価方法	各学期末に行う期末試験で評価します。		
授業目的及び概要	この科目では現代医学の診断や治療について基礎的知識を学習します。主に、診察（医療面接、視診、触診、聴診、打診、身体計測等）と検査（血液検査、尿検査、画像検査等）について取り上げます。この学習を通じてあはきの適応の判断や治療効果の適切な評価を行う臨床力を習得します。		
授 業 内 容			時間数
前 期 （ 15 週）			45
第1章 診察の概要			10
第2章 診察の方法			35
後 期 （ 15 週）			45
第2章 診察の方法（続き）			20
第3章 臨床検査法			10
第4章 治療法			10
第5章 臨床心理			5

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			2年
科 目	関係法規			
科目担当者	池田 和久			
単位数及び年間時間数	1	単位	30	時間
使用教科書	医療と関係法規(改定第7版) 岡山ライトハウス			
使用参考書	関係法規第7版 東洋療法学校協会編			
評価方法	前期・後期ともに期末試験を筆記試験で行い、評価指針によって評価する。			
授業目的及び概要	<p>施術者として必要なあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の業務に関する法令について教授し、施術者として法に則した業務を行う能力と態度を修得させる。リーガルリテラシー能力を養う。</p>			
授 業 内 容				時間数
前 期 (14 週)				14
ガイダンス (授業の進め方、評価方法など)				1
1. 法律とは。				1
2. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律における免許				
ア 免許の資格要件				2
イ 免許に関する事務など				1
ウ 身分の消滅と復活				1
3. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律における業務				
ア 業務の独占と業務範囲				1
イ 施術に関する注意				1
ウ 施術所などに関する規制				1
エ 施術所の名称の制限及び広告の制限				1
オ 業務の停止				1
カ 無免許営業の取り締まり				1
4. 罰 則				
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する罰則				1
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師施術所に関する罰則				1
後 期 (16 週)				16
5. その他の関係法規				
ア 医療に関する法律				
医療法の概要				1
医師法の概要				1
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要				1
イ 社会福祉に関する法律				
老人福祉法の概要				1
児童福祉法の概要				1
身体障害者福祉法の概要				1
知的障害者福祉法の概要				1
介護保険法の概要				1
老人保健法の概要				1
ウ その他の法律 (障害者総合支援法他)				5
6. 総復習				2

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2年
科 目	経絡経穴概論 I		
科目担当者	谷口 勝、池田 和久		
単位数及び年間時間数	3	単位	90 時間
使用教科書	新版 経絡経穴概論 (第2版)		
使用参考書			
評価方法	学期末に実施する期末試験で評価する。 後期期末試験は前期の内容も併せ総括したものとする。		
授業目的及び概要	あん摩マッサージ指圧師として必要な経絡経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。 施術者として必要な臓腑・経絡の概念、十四経脈とその経穴の名称、主要な経穴の部位及び所属、五要穴について学ぶ。 (原級留置者に対して新カリキュラム移行に伴い再履修が必要なため行う)		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			45
1. 経絡・経穴の基礎 臓腑・経絡の概要 経穴の概要			
ア 十二正経(経脈の名称と流注)			13
イ 奇経八脈			5
ウ 要穴の概要			5
エ 取穴法			2
2. 経脈・経穴			
ア 十四経の主な経穴名と部位			16
イ 解剖的肢位と方向に関する用語			2
ウ 取り方の基点となる経穴の部位と取穴			2
後 期 (15 週)			45
3. 経脈・経穴			
ア 十四経脈の名称と流注			5
イ 解剖学的部位と取穴			35
ウ 五要穴の取穴 (原穴 郄穴 絡穴 募穴 兪穴 (背部))			3
4. 経絡経穴の現代医学的研究			
ア 経絡経穴の研究			2

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2年
科 目	理療臨床医学各論		
科目担当者	高橋忠庸		
単位数及び年間時間数	3	単位	90 時間
使用教科書	生活と疾病Ⅲ（臨床医学各論）（上・下巻） 日本ライトハウス		
使用参考書			
評価方法	前期、後期の試験で評価する。		
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な現代医学の立場からみた系統別疾患の病態生理及び診断、治療に関する基礎的知識について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。</p>		
授 業 内 容			時間数
前 期 （ 15 週）			45
1. ガイダンス（授業の進め方、評価方法等） 2. 第1章 整形外科疾患の病態生理及び診断、治療 保存療法と手術療法 関節疾患、骨代謝性疾患・骨腫瘍 筋・腱疾患、形態異常 脊椎疾患、脊髄損傷 外傷、その他の整形外科疾患等			1 44 4 6 6 14 14
後 期 （ 15 週）			45
1. 第2章 神経系疾患の病態生理及び診断、治療 脳血管疾患、感染性疾患 脳・脊髄腫瘍、基底核変性疾患 その他の変性疾患、認知症 筋疾患、運動ニューロン疾患 末梢神経疾患、神経痛、機能性疾患 2. 第13章 麻酔科とペインクリニック（全身麻酔、局所麻酔、神経ブロック等）の病態生理及び診断、治療			40 10 6 6 8 10 5

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			2年
科 目	東洋医学概論Ⅱ			
科目担当者	麻生 弘樹			
単位数及び年間時間数	3	単位	90	時間
使用教科書	「新版 東洋医学概論」 東洋療法学校協会編			
使用参考書	基礎理療学Ⅰ オリエンス研究会著			
評価方法	各学期末に試験を行い評価する。			
授業目的及び概要	鍼・灸師として必要な東洋医学の基本的な考え方、疾病の捉え方、診断・治療の基礎等について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。			
授 業 内 容				時間数
前 期 (15 週)				45
(1) 東洋医学の基礎				11
(2) 五臓六腑(位置・形状・生理)				14
(3) 臓腑経絡論(臓腑論・経絡論)				8
(4) 気血津液(気・血・津液)				12
後 期 (15 週)				45
(5) 病因論(内因・外因・不内外因・三毒説)				8
(6) 病証論(八綱・気血津液の病理病証・五臓六腑の病理病証・十二経奇経八脈病証)				14
(7) 診断法(四診・随証)				12
(8) 治療法(古代鍼法・治療原則・経絡経穴の選択・糖液療法・養生法)				11

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2年
科 目	経絡経穴概論Ⅱ		
科目担当者	中西初男		
単位数及び年間時間数	2	単位	60 時間
使用教科書	新版 経絡経穴概論(日本理療科教員連盟・東洋療法学校協会編)		
使用参考書	WHO/WPRO標準経穴部位 日本語公式版 ビジュアル版 東洋医学 経絡・ツボの教科書		
評価方法	各期末に実施する試験で評価する。 後期期末試験は前期の内容も併せ総括したものとする。		
授業目的及び概要	あはき師として必要な経絡経穴と解剖学の知識を学び、取穴と基本的な配穴能力を養う。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			30
オリエンテーションガイダンス			
第1章 経絡・経穴の基礎			
経穴の概要(骨度法、要穴の概略)			2
第2章 十四経脈とその経穴			
Ⅰ. 経穴の取り方に必要な用語：体表指標			2
Ⅱ. 十四経脈とその経穴：流注、所属経穴、部位、取り方、解剖、要穴について			23
復習			2
後 期 (15 週)			30
第2章 十四経とその経穴			
Ⅱ. 十四経脈とその経穴：流注、所属経穴、部位、取り方、解剖、要穴について			12
Ⅲ. 奇経八脈の概要			6
Ⅳ. 奇穴・組み合わせ穴			4
Ⅴ. 部位別経穴の位置と取穴について			4
第3章 経絡経穴の現代医学的研究			2
復習			2

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2年
科 目	あん摩マッサージ指圧応用実習 I		
科目担当者	高橋忠庸・吉野徹也		
単位数及び年間時間数	4	単位	120 時間
使用教科書	なし		
使用参考書	手技療法の基礎と臨床		
評価方法	前期、後期の試験で評価する		
授業目的及び概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と基本的治療技術を指導することにより応用力を養い、3年次のあま指臨床に応用できる技術と態度を養う。学年末には臨床実習前試験を実施する。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			60
1 導入			4
2 基礎実技の復習			26
側臥位			10
伏臥位			12
仰臥位			4
3 全身施術			26
背腰部			8
下肢			6
上肢			6
頭頸部			4
4 臨床の基礎			4
施術者倫理			
接遇			
後 期 (15 週)			60
5 各部位に対する施術			16
6 遭遇しやすい疾患入門編			20
(1) 五十肩			4
(2) 肩こり			4
(3) 腰痛			4
(4) 坐骨神経痛			4
(5) 膝疾患			4
7 臨床入門			20
身体診察			4
施術方針			2
施術方法			12
まとめ			2
8 臨床実習前試験			4

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程 2年		
科 目	はりきゅう応用実習 I		
科目担当者	米田裕和、島村明盛、尾崎雅則		
単位数及び年間時間数	4 単 位	120	時 間
使用教科書	鍼灸実技 オリエンス研究会編		
使用参考書	新版 経絡経穴概論、人体の構造の機能 解剖学 第2版		
評価方法	随時試験＋期末試験で評価する。 臨床入門における目標到達度を示す。		
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な、はりきゅう施術に関する西洋医学的な知識と技能について習得し、はりきゅう施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う。また、はりきゅう応用Ⅱと並行して授業を進めることによって、東西医学の両面から配穴を行い、総合的な診断、治療ができるよう触察技術を基本に実習する。学年末には臨床実習前試験を行い、評価する。</p>		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			60
<p>1. 西洋医学的診断に基づいた鍼灸施術（臨床実習前試験に関わる内容を伴う。）</p> <p>(1) 下腿と足関節 5</p> <p>(2) 骨盤と腰仙・仙腸関節 5</p> <p>(3) 骨盤と股関節 5</p> <p>(4) 手関節と前腕 5</p> <p>(5) 肩関節 5</p> <p>(6) 膝関節 5</p> <p>2. 分野別の治療法（健康医学分野・産業医学分野・スポーツ医学分野・老年医学分野） 2</p> <p>3. 臨床入門（リスク管理・衛生管理・患者への対応・診察の進め方・適否の判定） 16</p> <p>5. 特殊鍼法（小児鍼法・皮内鍼法・灸頭鍼法・刺絡鍼法・鍼通電療法・その他） 8</p> <p>6. 施術所見学実習 2</p> <p>講評 2</p>			
後 期 (15 週)			60
<p>2. 分野別の治療法（健康医学分野・産業医学分野・スポーツ医学分野・老年医学分野） 4</p> <p>3. 臨床入門（リスク管理・衛生管理・患者への対応・診察の進め方・適否の判定） 10</p> <p>4. 日常遭遇しやすい主な疾患・施術に対する診察と施術</p> <p>(1) 運動器系（肩こり・頸肩腕痛・腰下肢痛・肩・膝の関節痛） 30</p> <p>(2) 呼吸器・循環器系（咳嗽・高血圧症） 2</p> <p>(3) 消化器系（胃炎・便秘・下痢） 2</p> <p>(4) 婦人科系（月経異常・更年期障害） 2</p> <p>(5) その他</p> <p>5. 特殊鍼法（小児鍼法・皮内鍼法・灸頭鍼法・刺絡鍼法・鍼通電療法・その他） 6</p> <p>7. 臨床実習前試験 2</p> <p>講評 2</p>			

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程 2年		
科 目	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ		
科目担当者	小泉 貴・牧 邦子		
単位数及び年間時間数	2	単位	60 時間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床（岡山盲学校編）		
使用参考書	生活と疾病Ⅱ（臨床医学総論）		
評価方法	前期、後期の各学期ごとに、複数教官により実技試験を行い評価する。 又、臨床実習前試験を実施し、評価の内容に加える。		
授業目的及び概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を指導することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を養う。学年末には臨床実習前試験を実施する。		
授 業 内 容			時間数
前 期 （ 15 週）			30
1. 導入（指導計画の説明等）			1
2. 実践的な施術方法			10
3. 臨床を意識した各肢位における施術技術の向上			19
1) リスク管理			2
2) 医療接遇			2
3) 触察			13
4) 施術中の立ち位置、姿勢など			2
後 期 （ 15 週）			30
1. 腹部のマッサージ			4
2. 下肢のオイルマッサージ			6
3. 臨床入門			20
各種症候に応じた診察・評価・治療			16
臨床実習前試験			4

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2年
科 目	はき応用実習Ⅱ		
科目担当者	池田 和久・嶋 正明		
単位数及び年間時間数	2	単位	60 時間
使用教科書	鍼灸実技 オリエンズ研究会編		
使用参考書	新版 経絡経穴概論		
評価方法	随時試験＋期末試験＋平常点＋臨床前試験で評価する。期末試験については、刺鍼・施灸技術、診断・治療の流れ、施術部位の取穴法、衛生面、患者への対応などについて評価する。		
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。また、期末試験及び臨床実習前試験を行い、技術等に関する評価を行う。</p> <p>実習を通じて東洋医学的な知識と技能について修得し、はりきゅう施術を適切かつ効果的に行う技能と態度を養い、はりきゅう応用Ⅰと並行して授業を進めることによって、東西医学の両面から配穴を行い、総合的な診断、治療ができるよう触察技術を基本に実施する。</p>		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			30
1. 体幹の触察と背部兪穴、募穴への施灸と刺鍼			
ア 体幹の触察			2
イ 背部兪穴・募穴への施術			4
2. 東洋医学による診察法の基礎と鍼灸施術			
ア 脈状診			8
イ 比較脈診			6
ウ 基本四証			6
エ 腹診（上下腹診法を中心に）			2
3. 臨床実習前試験に関する指導			
ア 医療面接に関すること			2
後 期 (15 週)			30
4. 原穴・絡穴・郄穴、下合穴の運用と鍼灸施術			2
5. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術			
東洋医学的診断に基づいた鍼灸施術（灸療法と特効穴の運用を含む）			
ア 運動器疾患			4
イ 呼吸器、循環器疾患			2
ウ 婦人科疾患			2
エ 消化器系疾患（胃炎、便秘、下痢）			2
6. 特殊鍼法（皮内鍼法、接触鍼法（小児鍼）ほか）			6
7. 臨床入門（リスク管理、衛生管理、患者への対応、診断の進め方、適否の判定）			7
8. 臨床実習前試験に関する指導			
ア はき応用Ⅱに関すること			4
9. 臨床前試験			1

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			3 年
科 目	臨床医学各論			
科目担当者	高橋忠庸			
単位数及び年間時間数	3	単位	90	時間
使用教科書	生活と疾病Ⅲ（臨床医学各論）（上・下巻） 日本ライトハウス			
使用参考書				
評価方法	前期・後期期末試験により評価する			
授業目的及び概要	国家試験出題基準に基づいた知識を習得させる。①概念②症状③診断④治療の順にポイントをおさえる。また、各疾患を生体病理学的に考えさせる授業を行う。さらに、系統別に必要な知識は資料を使用して講義及び実習形式で学習する。			
授 業 内 容				時間数
前 期 （ 15 週）				45
ガイダンス（授業の進め方、評価方法等）				1
第3章 消化器疾患（口内炎等）、消化器疾患（食道疾患、胃疾患、胃炎、腸疾患、肝疾患、胆石症、膵疾患等）				14
第4章 呼吸器疾患（感染性呼吸器疾患、慢性閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器障害、その他の呼吸器疾患）				9
第5章 循環器疾患（心疾患、動脈硬化症・大動脈瘤等）				13
第6章 血液・増血器疾患（赤血球系疾患、白血球系疾患、悪性リンパ種、出血傾向）				8
後 期 15 週）				45
第7章 腎・泌尿器疾患（腎不全、ネフローゼ症候群、腎・尿路結石症等）				
第8章 内分泌疾患（下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患）				8
第9章 男性生殖器疾患（前立腺肥大症、前立腺癌）				1
第10章 代謝・栄養疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）				8
第11章 膠原病・膠原病類似疾患（関節リウマチ、SLE、全身性硬化症等）				6
第20章 感染症（概要、細菌感染症、ウイルス感染症等）				10
その他各科の疾患				12
一般外科、皮膚疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患等				

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程 3年		
科 目	リハビリテーション医学		
科目担当者	浮田 正貴		
単位数及び年間時間数	2	単位	60 時間
使用教科書	生活と疾病 I A リハビリテーション医学 (概論編) 生活と疾病 I B リハビリテーション医学 (基礎運動学編)		
使用参考書	東洋療法学校協会編 リハビリテーション医学		
評価方法	前期期末、後期期末の2回の定期試験の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。		
授業目的及び概要	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識と臨床への応用技術を習得し、施術者としての態度を身につける。また、病院見学実習を行うことでその知識や技術を深める。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			30
第1章 リハビリテーションの概要			6
第1節 リハビリテーションの理念 (ノーマライゼーションとIL運動)			
第2節 リハビリテーション医学の概要 (身体障害の分類)			
第3節 障害の概念 (ICDHとICF)			
第4節 リハビリテーションの分類			
第5節 地域リハビリテーション			
第6節 リハビリテーションの諸段階 (急性期・回復期・維持期リハビリテーション)			
第7節 リハビリテーションチーム			
第8節 医学的リハビリテーションの流れ			14
第2章 障害の評価			
第1節 評価の目的			
第2節 心身機能・身体構造の評価			
第3節 活動の評価			10
第4節 参加・環境因子の評価			
第3章 リハビリテーション治療			
第1節 理学療法			
第2節 作業療法			
第3節 言語聴覚療法			
第4節 義肢、装具、杖、車椅子、歩行器、自助具			
後 期 (15 週)			30
第4章 疾患別リハビリテーション			5
第1節 脳血管障害のリハビリテーション			
第2節 脊髄損傷のリハビリテーション			5
第3節 脳性麻痺のリハビリテーション			5
第4節 切断のリハビリテーション			3
第5節 呼吸器疾患のリハビリテーション			3
第6節 整形外科疾患のリハビリテーション			3
五十肩 腰痛 変形性関節症 (膝関節を中心に) 大腿骨頸部骨折			3
第7節 神経疾患のリハビリテーション (パーキンソン病)			
正中神経 尺骨神経 橈骨神経 大腿神経 総腓骨神経 脛骨神経 各麻痺			2
第8節 その他疾患のリハビリテーション			
病院見学実習			1
後期10月中旬に病院見学実習 (理学療法室) を計画			

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程3年		
科 目	医療概論		
科目担当者	島村 明盛		
単位数及び年間時間数	1	単 位	30 時間
使用教科書	医療と社会 改訂第7版		
使用参考書	なし		
評価方法	前期期末、後期期末の2回の定期試験の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。		
授業目的及び概要	現代の医療制度を学び、特徴と問題点を考える。更に医療倫理について必要な歴史とともに学び、施術者としての倫理を考える。		
授 業 内 容			時 間
前 期 (15 週)			15
オリエンテーション			1
現代医学と医療			
医療経済			1
医療従事者			1
医療・福祉施設			2
社会保障制度			
医療保障			2
医療保険の仕組み			2
公費負担医療			2
社会保障制度			
介護サービス行政			3
講評			1
後 期 (15 週)			15
医療倫理			
医療倫理・医療教育の倫理			7
施術者としての倫理			1
現代医学と医療			
近代医学の特徴			1
医療と社会			1
医学史・参考データ・国家試験等			4
講評			1

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		3 年
科 目	関係法規		
科目担当者	藤原太樹		
単位数及び年間時間数	1	単位	30 時間
使用教科書	医療と関係法規(改定第7版) 岡山ライトハウス		
使用参考書	関係法規第7版 東洋療法学校協会編		
評価方法	前期・後期ともに期末試験を筆記試験で行い、評価指針によって評価する。		
授業目的及び概要	あはき師国家試験の出題基準に重点を置き、あはき師の業務に関する法令について基礎的事項を学習する。法律の存在を知り、その意味するところを理解し、活用することができる能力を養う。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			15
ガイダンス (授業の進め方、評価方法など)			1
第1章 あん摩・鍼灸における法と制度の概要 (法とは何か、あん摩・鍼灸の制度史)			13
第2章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律の概要 (免許行為、施術上の制限、医療類似行為)			13
まとめ			1
後 期 (15 週)			15
第3章 その他の関係法規 主な医療関係法規、衛生法規、社会福祉関係法規			13
総復習、国家試験過去問演習			2

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		3年
科 目	東洋医学臨床論		
科目担当者	松浦久泰		
単位数及び年間時間数	4	単位	120 時間
使用教科書	『臨床理療学 [理療臨床論]』(改訂第4版) 日本理療科教員連名 理療教科用図書編纂委員会編		
使用参考書	東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」		
評価方法	前期・後期ともに期末試験を筆記試験で行い、その成績で評価する。		
授業目的及び概要	あん摩マッサージ指圧師、鍼師、灸師として必要な施術の適否及び現代 医学と東洋医学を総合した施術法について教授し、施術を適切かつ効果 的に行う能力と態度を修得する。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			60
1. 総論 —— 理療施術の特徴、診察・治療の原則など			4
2. 運動器系の症状 —— 肩こり・頸肩腕痛・腰下肢痛・関節痛・筋肉痛・腱鞘炎・運動麻痺・スポーツ医学と理療施術			37
3. 頭部・顔面部の症状 —— 頭痛・顔面痛・顔面麻痺・歯痛・眼精疲労・鼻閉と鼻漏・めまい・耳鳴と難聴			16
復習			3
後 期 (15 週)			60
4. 呼吸器系の症状 —— 咳と痰・息切れ・胸痛			6
5. 消化器系の症状 —— 腹痛・悪心と嘔吐・食欲不振・便秘・下痢			15
6. 泌尿生殖器系の症状 —— 排尿異常・勃起障害・月経異常			12
7. その他の症状 —— 高血圧・低血圧・不眠・肥満など			9
8. 高齢者に対する理療施術			7
復習			3
国家試験対策の総復習			8

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			3年
科 目	臨床診察学			
科目担当者	米田裕和			
単位数及び年間時間数	1	単位	30	時間
使用教科書				
使用参考書	人体の構造の機能 解剖学 第2版			
評価方法	筆記試験及び実技試験を行って、あはき師に必要な診察的知識・技術が修得できているか否かを評価する。			
授業目的及び概要	あはき師として必要な診察に関する知識と技術を習得させる。特に医療面接と身体診察から得られた情報に基づく臨床推論の考え方や触察能力の向上に重点を置く。			
授 業 内 容				時間数
前 期 (15 週)				15
1. 医療面接と施術録作成の基本				3
2. 不応疾患の鑑別				6
3. 深部腱反射と病的反射				3
4. 適応症に関する主な整形外科的検査				3
後 期 (15 週)				15
1. 臨床推論の進め方				1
2. 臨床検査の診断学的有用性				3
3. 臨床診察（主に触察）の演習				11

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			3 年
科 目	臨床取穴学			
科目担当者	飯塚 尚人			
単位数及び年間時間数	1	単位	30	時間
使用教科書	なし			
使用参考書	経絡経穴概論（東洋療法学校協会編第2版）			
評価方法	前期末及び後期末試験を行い、理療教育課評価指針に基づいて行う。			
授業目的及び概要	施術者として必要な取穴法、選穴法及び配穴法について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。			
授 業 内 容				時間数
前 期 （ 15 週）				15
取穴法・選穴法・配穴法について （1）正確な生態観察に基づく取穴法の基礎（指標となる突起部の触診、基準線、骨度法の （2）選穴法、配穴法に必要な経穴の取穴				5
各種の理療施術形式における配穴 （1）背候診による取穴 （2）正経治療法（相剋・相武・子午治療） （3）奇経治療法 （4）奇穴、特効穴の取穴法				10
後 期 （ 15 週）				15
各種の理療施術形式における配穴 （1）太極療法、深谷灸法 （2）その他の治療形式				5
主要症状に対する選穴・配穴法 （1）肩こり （2）腰下肢痛 （3）その他の愁訴				10

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			3年
科 目	地域理療と理療経営			
科目担当者	飯塚 尚人			
単位数及び年間時間数	2	単位	60	時間
使用教科書	岡山ライトハウス発行「地域理療と理療経営 改訂第8版」			
使用参考書				
評価方法	前期末及び後期末試験を行い、理療教育課評価指針に基づいて行う。			
授業目的及び概要	地域社会での役割、医療・保健・福祉及び理療との関係、理療経営の知識を習得し、臨床や就労の場で活用できる能力を養う。			
授 業 内 容				時間数
前 期 (15 週)				30
1. 科目の目標と年間計画				1
2. 理療経営の基礎				2
3. 個人による開業				9
(1) 免許申請の手続き				
(2) 開業までの準備				
地理的条件、施設・設備、資金、広告等				
(3) 業務開始時に決めておくべき事柄				
(4) 業務の開始				
(5) 検収の継続				
(6) 財務管理				
(7) 各種記録とその保管				
4. 規模の大きい施術所の経営				2
5. 理療経営の基礎				1
6. 医療保険及び公費負担医療				13
7. 施術に関する療養費の取り扱い				8
後 期 (15 週)				30
8. 施術に伴う賠償責任保険				8
9. 介護保険制度の概要				14
10. 介護保険給付の内容				6
11. あはき師の社会的責任				6

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		3 年
科 目	はき臨床実習 I		
科目担当者	小泉 貴、奥山夕記子、島村 明盛、大久保正樹		
単位数及び年間時間数	2	単 位	90 時間
使用教科書	なし		
使用参考書	なし		
評価方法	臨床実習評価基準に基づき、前期・後期に評価する。		
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。また、臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。 今年度は一クラスをA班、B班とグループ分けして指導する。</p>		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			45
<p>1. 実習の準備と整頓、施術者としての基本を実行する。 患者（実習協力者、以下患者）への配慮、指導教官と他の実習生への協力。 消毒・清潔の保持。環境設定、施術器具の正しい取り扱い。</p> <p>2. 教官とともに診察・評価し、教官の指導の下で施術する。 患者の主訴、症状を明らかにする。疾病の理解、施術の適否の判断。 患者への説明、症状に基づいた評価、治療目標、治療計画。 安全で効果的な施術の選択と実施。</p> <p>3. 教官とともに施術後の評価を検討する。 施術後の評価と検討。</p> <p>4. 施術後、施術録を作成し、指導と助言を受ける。 適切な施術録の作成</p>			<p>通年 通年</p> <p>通年 通年 通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
後 期 (15 週)			45
<p>5. 臨床家として診察・評価・施術、その結果についての検討 1. ～4. の臨床上の実践、課題発見と自己解決。</p> <p>6. 実習のまとめ</p>			<p>通年 通年</p>

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		3年
科 目	あん摩マッサージ指圧理論		
科目担当者	牧 邦子		
単位数及び年間時間数	2	単位	60 時間
使用教科書	基礎保健理療Ⅱ（保健理療理論） 都立文京盲理療科研究会著 改訂版		
使用参考書	東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧理論		
評価方法	各学期ごとに国家試験に順じた筆記試験を行い評価する。		
授業目的及び概要	あん摩・マッサージ・指圧師として必要な歴史観、現代社会的意義、機械的操作の成立ち、治効理論、治療的作用、リスク管理などの基礎的知識を修得させるとともに、各手技療法における分析的思考能力を身に付けさせることにより、臨床の場での治療的発展性を獲得させる		
授 業 内 容			時間数
前 期 （ 15 週）			30
導入			1
第1章 あん摩マッサージ指圧の意義			1
第2章 あん摩の基礎			12
第1節 あん摩の意義と沿革			
第2節 あん摩の基本手技（古法あん摩含む）			
第3章 マッサージ			8
第1節 マッサージの意義と沿革			
第2節 マッサージの基本手技と生理的作用			
第3節 運動法と生理的作用			
第4節 結合織マッサージ			
第5節 医療マニュアルリンパドレナージ			
第4章 指圧			6
第1節 指圧の意義と沿革			
第2節 指圧の基本手技			
第5章 その他の関連する治療			2
後 期 （ 15 週）			30
第6章 あん摩マッサージ指圧の臨床応用（刺激量、感受性、あん摩マッサージ指圧の適応と禁忌）			1
第7章 リスク管理			10
第1節 リスク管理の基本			
第2節 あん摩マッサージ指圧の過誤			
第3節 あん摩マッサージ指圧における感染症対策			
第8章 あん摩マッサージ指圧の基礎理論			10
第1節 刺激の伝達			
第2節 中枢内の神経伝導路			
第3節 反射			
第4節 治療効果と反射			
第5節 治療的作用と生体反応			
第9章 あん摩マッサージ指圧の治効理論			4
第1節 身体組織、器官への影響			
第2節 自律神経および内分泌系への影響			
第10章 関連学説			5
第1節 ホメオスターシス			
第2節 ストレス学説			

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程 3年		
科 目	はりきゅう理論		
科目担当者	池田 和久		
単位数及び年間時間数	2	単位	60 時間
使用教科書	理療理論（改訂第10版） 盲学校理療教科用図書編纂委員会編		
使用参考書	はりきゅう理論 医道の日本社		
評価方法	前期・後期期末試験により学年末評価を行う。評価指針に基づき評価を行うが、平常点は加味せずに、筆記試験のみの点数により評価を行う。		
授業目的及び概要	はり師、きゅう師として必要な鍼灸の歴史(先人の知恵)、基礎理論及び臨床効果について教授し、科学的視点から施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			30
1. 鍼の基礎			
ア 現代の日本の鍼 イ 古代九鍼			4
3. 基本的な刺鍼方法			
ア 刺鍼の基本操作 イ 刺鍼中の手技			4
4. 特殊鍼法			
ア 小児鍼法 イ 皮内鍼法、円皮鍼法 ウ 灸頭鍼法 エ 低周波鍼通電療法 オ その他の特殊鍼法			4
5. 灸の概要			
ア 灸の材料			3
6. 灸法の種類			
ア 有痕灸 イ 無痕灸			3
7. 鍼灸の臨床応用			
ア 刺激量 イ 感受性 ウ 鍼灸の適応と禁忌			6
8. リスク管理			
ア リスク管理の基本 イ 鍼灸療法の過誤と副作用 ウ 感染症対策			6
後 期 (15 週)			30
9. 鍼灸の治効基礎			
ア 末梢における鍼灸刺激の受容と伝導 イ 感覚の中枢内伝導路 ウ 鍼灸刺激と反射 エ 鍼鎮痛 オ 刺激と反応			20
11. 関連学説			
ア サイバネティクス イ ホメオスタシス ウ ストレス学説 エ レイリー現象 オ 圧自律神経反射 カ その他の関連学説			10

平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		3年
科 目	はき臨床実習Ⅱ		
科目担当者	池田和久、鈴木 格、佐藤智紀、嶋 正明		
単位数及び年間時間数	2	単位	90 時間
使用教科書	なし		
使用参考書	なし		
評価方法	臨床実習評価基準に基づき、前期・後期に評価する。		
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。また、臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。</p> <p>今年度は一クラスをA班、B班とグループ分けして指導する。</p>		
授 業 内 容			時間数
前 期 (15 週)			45
<p>1. 実習の準備と整頓、施術者としての基本を実行する。 患者（実習協力者、以下患者）への配慮、指導教官と他の実習生への協力。 消毒・清潔の保持。環境設定、施術器具の正しい取り扱い。</p> <p>2. 教官とともに診察・評価し、教官の指導の下で施術する。 患者の主訴、症状を明らかにする。疾病の理解、施術の適否の判断。 患者への説明、症状に基づいた評価、治療目標、治療計画。 安全で効果的な施術の選択と実施。</p> <p>3. 教官とともに施術後の評価を検討する。 施術後の評価と検討。</p> <p>4. 施術後、施術録を作成し、指導と助言を受ける。 適切な施術録の作成</p>			<p>通年 通年</p> <p>通年 通年 通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
後 期 (15 週)			45
<p>5. 臨床家として診察・評価・施術、その結果についての検討 1. ～4. の臨床上の実践、課題発見と自己解決。</p> <p>6. 実習のまとめ</p>			<p>通年 通年</p>